

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料2

令和5年1月17日

協議会名: 四日市市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	こにゅうどうくんライナー(1系統) 県立総合医療センター～小山田病院	【評価対象期間における前回の評価結果を受けての対応状況】 ・持続可能な地域公共交通サービスの実現に向けて、令和4年度内の策定に向けて取り組んでいる、地域公共交通計画のなかで、こにゅうどうくんライナーを身近な生活に必要な外出を支える役割として位置づけている。 ・利用啓発のポスターを作成し、沿線地区の市民センターに掲示した。 ※この事業は令和4年3月に初めて事業評価を受けたため、今回の評価対象となる令和3年6月に申請した生活交通確保維持改善計画には前回の評価結果は反映できていない。	A	計画どおりに運行している。	年間利用者数、収支率 (目標)6,000人、12%以上 (実績)5,292人、7% 対目標値 88%、58%(未達成) C コロナ禍による外出控えが続いた影響などにより利用者数は目標に届かなかった。また、燃料費等の高騰に伴い経常費用が増加した。一方で利用者数の減少に伴い、経常収益は減少したため収支率も目標に届かなかった。	・当該路線に接続するバス路線及び鉄道のダイヤ変更がある場合は、必要に応じてダイヤ変更を実施する。(市、事業者) ・目標値を実績値にあわせて見直す。(市、事業者) ・令和4年11月に利用促進イベントとして「こにゅうどうくんライナーで健康&お買い物ツアー」を実施した。このイベントで得られた意見等を踏まえ、今後も利用促進イベントを企画・実施する。(市、事業者)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月17日

協議会名:	四日市市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・四日市市では、輸送力や定時性に優れる鉄道網を維持するとともに、バスやタクシー等の公共交通が相互に連携し、都市機能が集積する中心市街地を中心とした効率的な交通ネットワークの構築を目指している。</p> <p>・四日市平田線が近鉄四日市駅と鈴鹿市を南北に結ぶ幹線であり、イオンタウン四日市泊(乗り継ぎ拠点)で接続することにゆうどうくんライナーは、市南西部の住民の中心市街地、鈴鹿市方面へのアクセス手段を確保するため不可欠である。</p> <p>四日市市都市総合交通戦略及び四日市市地域公共交通網形成計画に掲げる取り組みの方向に基づき、引き続き持続可能な魅力あるまちづくりに取り組む。</p> <p>【取り組みの方向(戦略)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自由に移動し交流できる公共交通体系づくり ②円滑な交通を支える道づくり ③まちなかの賑わいづくり ④市民・公共交通事業者・行政の連携づくり